

2.

田舎なれども南部の国は 西も東も金の山

岩手県・南部 蝦夷の鉄 北上山系 大槌・釜石へ

1. 蝦夷の鉄 北上山系南部の鉄
2. 古代 北東北の鉄生産（秋田・岩手・青森）
3. 釜石 鉄の歴史館に「餅鐵」を訪ねて
4. 古代 蝦夷の鉄 鬼伝説の街 大槌町へ
5. 北上は蝦夷の根拠地 もう一つの和鉄の故郷

1. 蝦夷の鉄 北上山系 南部の鉄



9.23. 津軽へ行った帰りに東北 和鉄の故郷 「大槌・釜石」へ行ってきました。

約10年前 盛岡から北上山地をバスで越え、三陸海岸北部の山田から田野畠・久慈へ和鉄を訪ねた事があるので、今度はそれにつながる三陸海岸中央部 釜石へ

「蝦夷の鉄 餅鐵」 砂鉄と並ぶ和鉄の製鉄原料「餅鐵」

この餅鐵 そして 蝦夷の鉄のロマンを訪ね 同時に今の釜石も見たくて ······



鉄の歴史館に展示されている餅鐵

製鉄遺跡が散在する「大槌・小鎌」

「餅鐵は釜石へ行けばゴロゴロしている」との話を聞いて 盛岡から汽車で東へ。 北上山系の主峰 早池峰山の山裾 遠野を通って山中へ。



鉄の街 釜石 の ルーツ 鉄筋脈が眠る仙人峠への山並みと餅鐵をはぐくんだ甲子川

洋式高炉の近代製鉄発祥を支えた鉄鉱脈と高炉建設場所である深い山並みを海岸に出たところが釜石。この北上山地一帯は古代蝦夷の根拠地。古代「砂鉄 たら」とは別に 蝦夷と呼ばれた人たちによって磨かれた独自の「鉄鉱石・餅鐵によるたら」製鉄法があったという。北上山系の鉄・鉱物資源と森林資源は古代 蝶夷の宝であり、蕨手刀という強力な武器を持つ蝦夷が中央の大和朝廷と対峙した。

中世には この北上・南部の鉄製錬・鍛冶加工技術が日本中央や各地に持ち込まれ、出雲を発祥の地とする日本古来の砂鉄製鉄技術と融合し、飛躍的な製鉄技術の発展をみたといわれる。



遠野ー釜石間 千人峠近傍の山深い北上山脈 トンネルを抜けると釜石の街



そして、近世には この釜石で後背地の山から出る鉄鉱石を原料とした日本最初の洋式高炉による鉄生産がはじまり、今日の鉄鋼王国日本のスタートがきられた。

「西の奥出雲・中国山地 東北の南部」 和鉄ルーツのロマンを秘めた和鉄の故郷である。



北上山系 釜石周辺の山には砂鉄と共に豊富な自然鉄（鉄鉱石鉱脈）があり、それらが川にながされて磨かれ『餅鉄』が作られ、北上山中から流れ出る川のあちこちには餅鐵があったという。

この餅鉄は容易に「野たら」鍛冶製錬や鍛錬で鉄製品に加工することができます。

が可能であり、この技術を知った蝦夷は古代西から砂鉄製錬が持ち込まれる以前から独自の製鉄技術を連綿と続けてきた。（確かな証拠はないが……）

そして、さらに西から入ってきた砂鉄製錬技術とも融合させてきたのではないか……

北東北周辺に広く分布する蝦夷の武器「蕨手刀」には砂鉄製錬による鉄ばかりでなく、鉄鉱石精錬で作

られた鉄で作られたものが多く混じっている。

また 大和政権の奥州征伐後 奥州の鉄の工人が「俘囚」として日本各地に散らばっていった事 さらに「蕨手刀」工人の故郷「舞草」や「月山」の工人が中央に出て「日本刀」の原型が作られていった事などはこの傍証となろう。

また 釜石市の隣りの大槌町小鎌の小林家に伝わる「小林家製鉄絵巻」では 餅鐵をではないかといわれる「六合吹き」の製鉄絵が描かれている。この絵巻には巻末に 1126 年に模写した事、巻頭の絵の余白



には「大道二酉歳二月十六日」との記載があると言われ、「大道二年」が「大同二年」とすると 807 年にあたり、そのまま信用は出来ないとしてもかなり古くから製鉄がこの地で行われていた事が推察される。

大槌町小鎌の小林家に伝わる「小林家製鉄絵巻」

また 南部は「遠野物語」に代表される民話の故郷でもある。

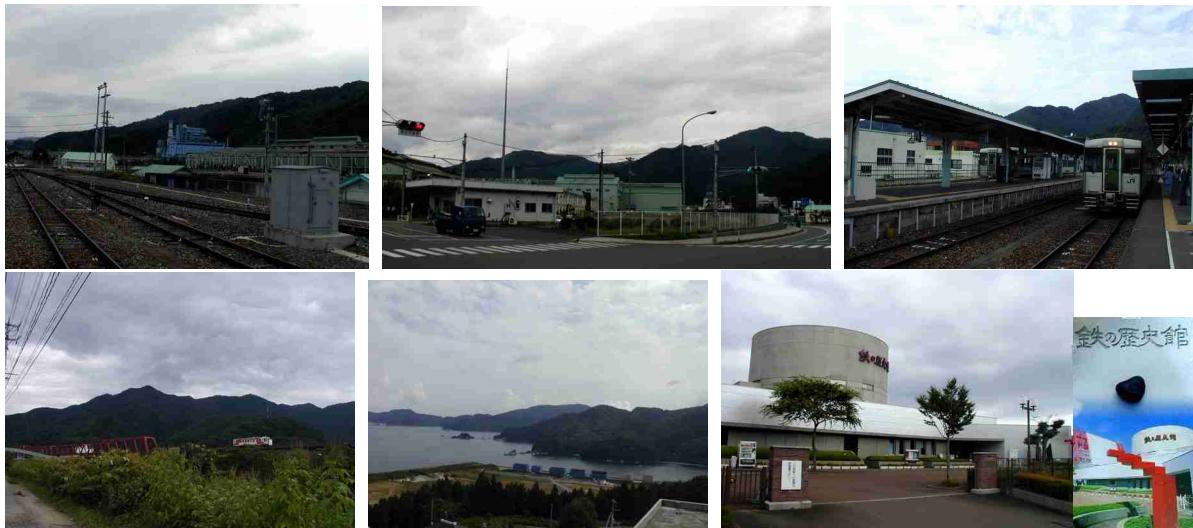
古くから製鉄の故郷であるこの地（大槌町小鎌）にも鉄と鬼との深い関係が語られた「鬼」の伝承もありました。（しおはまやすみ・船橋暉男「遠野上郷大槌町物語」柴田弘武著「鉄と俘囚の古代史」より引用）

北上山中から流れでる川の流域から得られる餅鐵の秘めたロマン

でも この餅鐵が古代から現代まで 「悲劇の蝦夷」を含めて 日本誕生に果たした役割は大きい

深い深い北上の山中を抜け、狭い谷合いを甲子川に沿って拡がる釜石の街並みに入り、程無く釜石の市街と新日鐵釜石の工場が見えてくる海岸部の釜石駅。

釜石は考えていたより小さい街。駅前に広がる新生なった新日鐵釜石の工場には高炉が見えない。何ともさびしい限りであるが、真新しい工場群と新しいショッピングセンターに新しい芽吹き。



釜石点描

釜石駅から 新日鐵釜石

釜石後背の鉄鉱脈の山並み

新日鐵釜石 正面

釜石湾

釜石駅

鉄の歴史館

田舎なれども南部の国は 西も東も金の山

岩手県・南部 蝦夷の鉄 北上山系 大槌・釜石へ

2. 古代 北東北の鉄生産（秋田・岩手・青森）

インターネット 岩手日報「岩手 21世紀への遺産」&

「みちのくの鉄」（シンポジウム「今東北は燃えている 一」より）抜粋収録

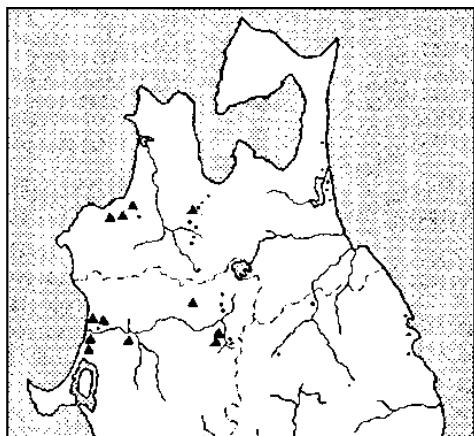
kitatetsu.htm

2002.10.1. by M. Nakanishi

東北地方の北部での鉄生産のはじまりは、大和政権が724年陸奥の支配強化と地方行政機構確立を目的に多賀城を建設した時に鉄生産にかかる専門工人も多数移住させたのに始まると考えられている。しかし、東北南部ではそれ以前から既に鉄生産が開始されており、福島県浜通りの武井地区製鉄遺跡群や 金沢製鉄遺跡群では多賀城建設以前の7世紀～10世紀まで製鉄作業が行われていたことが確認されている。

多賀城跡付近東約4kmに存在する柏木遺跡では4基の製鉄炉、5基の木炭窯、鍛冶工房などが発見され、その製鉄炉は福島県相馬地方や群馬県の製鉄炉の系譜を持つ円筒形の縦型炉であることから、関東・東北南部の技術移入が基礎にあったと考えられる。

東北北部岩手・秋田・青森での鍛冶・製鉄が広くおこなわれるようになったのは8世紀大和政権が多賀城を建設以降である。岩手県の三陸沿岸部宮古市から山田・大槌町にかけてからはチタン分の少ない良質の砂鉄が採取され、製鉄や鉄加工が早くから行われ、鉄滓、羽口を出土する遺跡がいくつか存在する。8世紀代の製鉄炉 山田町上村（かみむら）遺跡をはじめ、大槌町夏本遺跡では4基の鍛冶炉が検出され、山田町山ノ内遺跡・宮古市島田遺跡など製鉄遺跡が11世紀代まで継続することが明らかになってきた。



▲ 製鉄遺跡
・鍛冶工房と思われる遺跡
東北地方北部の古代鉄生産関係遺跡

岩手県北上川流域の製鉄遺跡としては、大瀬川遺跡があり、3基の豊形製鉄炉と考えられる遺跡が発見されているが、製鉄の詳細は不明である。

当時は沿岸部が鉄の供給地として重要な位置を占めていたと思われる。

秋田、青森県地方の鉄生産については、最近、古代の製鉄遺跡が次々に発見されている。

9世紀前～中頃秋田城に関連したものと推測される秋田市坂ノ上E遺跡では住居跡、豊形炉と木炭窯が一つずつ発見される。

また、その後 米代川流域と津軽の岩木山麓を中心とした地域に10世紀～11世紀頃と推定される豊形炉を有する製鉄遺跡群が発見されている。集中する

みちのくの鉄

<http://www.iwate-np.co.jp/isan/isan711.html>

（シンポジウム「今東北は燃えている - みちのくの鉄の歴史 - 」より抜粋）

- 岩手日報 「岩手 21世紀への遺産」

<http://www.iwate-np.co.jp/isan/isan711.html>

エミシの生業 - 沿岸部の鉄生産

田舎なれども南部の国は 西も東も金の山

岩手県・南部 蝦夷の鉄 北上山系 大槌・釜石へ

3. 釜石 鉄の歴史館に「餅鐵」を訪ねて



【釜石湾 鉄の歴史館より】



【 釜石：蝦夷・南部 鉄の故郷 近代製鉄発祥の地 】

釜石は海岸まで山が迫っており北上の山から、今 汽車で下ってきた狭い谷合を流れる甲子川沿いと河口のみが平地でその狭い場所に釜石製鉄所・市街地・港があり、釜石湾のみがオープンであとは山また山である。思ったより狭いが、放射状に街があり、その向こうに釜石湾が広がっているので明るい。日本近代製鉄発祥の地であり、出雲の鉄と並ぶ和鉄の故郷 東北「蝦夷の鉄」の本拠地・南部鉄 等々釜石への思い入れは強かつただけに「やっと来た」の思い。是非「餅鐵」にもしっかり会いたい。

釜石は日本近代製鉄発祥の地

江戸時代 末期 洋式の製鉄技術を学び、反射炉の操業に成功した大島高任(盛岡出身)が、良質の鉄鉱石が出る釜石に洋式高炉をつくり、安政4年12月1日、釜石の後背地の山大橋産の磁鉄鉱を用いた銚鉄の製造に成功。これが日本における近代製鉄の始まりで、この日を「鉄の記念日」としてその功績を今に伝えている。その後、釜石は常に日本の製鉄業の中心的な存在として日本近代製鉄の歴史を作ってきた。そして釜石にはこれらの鉄の歴史を展示した釜石市立「鉄の歴史館」があり、まず、鉄の歴史館を訪ねてそれから大槌の街にも立ち寄りたい。



現存最古の橋野洋式高炉跡



釜石後背の北上山系の川から採取された餅鐵

3.1. 釜石市立鉄の歴史館



釜石駅からタクシーで約10分 新日鐵の工場に沿って海岸の方に向けて 海岸に出る手前で南側の岡へ登って行く。正面には 釜石湾が広がり、その中央の突き出た半島には大きな釜石觀音の大きな像が海を見下ろしている。素晴らしい眺め。 背後は釜石の鉄を支えた北上の山々が連なっている。その高台を登った位置に鉄の歴史館が横に鋭い三角形の塔と円筒形の本館が組み合わされた立派な建物が小高い丘のてっぺんに建っている。

「鉄の歴史館」は日本ではじめて洋式高炉を築いた高島高任の偉業とその後の幾多の先達の業績を中心とした鉄の総合的な資料館で、原寸大の高炉の復元模型を中心に大島高任の日本初の洋式高炉についての各種資料やその後の釜石近代製鉄産業の発展（官営から民営やがて近代製鉄までの変遷）がパネル等で展示されている。



3. 2. 史跡 橋野高炉群跡 陸中大橋近傍

遠野から東へ北上山系の分水嶺を越えて釜石に入るあたり一帯の山は磁鉄鉱と黄銅鉱を主とする鉱石が豊富に埋蔵されている。日本初の洋式高炉（大橋高炉）橋野高炉群跡は、この山中にあり、釜石から北へ約36Km、標高560mの山地にある。



洋式高炉を支えた鉄鉱脈



陸中大橋 釜石鉱山近傍の北上山系 山中



この豊富な鉄鉱石を原料に安政3年 高島高任によって、日本初の洋式高炉（大橋高炉）が建設。その後この山中 大橋に3座、橋野に3座、左比内に2座、栗橋及び砂ばん子渡に各1座合計10座が良質豊富な鉄鉱石の産地を背景にいずれも高任の指導によって建設された。これらの高炉は鉄鉱石を原料とし、銑鉄の製造に成功した我が国最初の洋式高炉である。

かくして我国近代鉄鋼業は深い山々に囲まれたこの地にその発祥をみ、やがて明治維新を迎えるや、官営製鉄所の発足となり、釜石製鉄所の礎を築いたのである。

釜石鉄山大橋高炉跡地



橋野三番高炉跡



3.3. 蝦夷の鐵 餅 鐵



餅鐵(米鉄)	餅鐵																
橋野、栗林の川で採取したもの。 餅鐵の名前は製鍊した鉄の性質が 粘性に富むことから由来し、形状 からきたものではない。	分析表																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Fe</th><th>C</th><th>Si</th><th>Mn</th><th>P</th><th>Du</th><th>Ti</th><th>S</th> </tr> <tr> <th>48.5%</th><th>1.4%</th><th>0.41</th><th>0.03</th><th>0.13</th><th>0.13</th><th>0.004</th><th>0.003</th> </tr> </thead> </table>	Fe	C	Si	Mn	P	Du	Ti	S	48.5%	1.4%	0.41	0.03	0.13	0.13	0.004	0.003
Fe	C	Si	Mn	P	Du	Ti	S										
48.5%	1.4%	0.41	0.03	0.13	0.13	0.004	0.003										

鉄の歴史館入口に入ったところに大きな「餅鐵」が飾ってある。大きい。。。

館内には後背地の北上山系から流れ出るかわの流域から掘り出された沢山の餅鐵が展示され、これらが洋式高炉の原料として重要な役割を果たしたことが展示されている。

「餅鐵」については 古代から東北のたたら製鉄には出てくるのですが、私にとっては本当に不思議でよく判らなかった製鉄原料。

砂鉄・鉄鉱石たたらと同時に東北では餅鐵を使ったたたら製鉄があるという。

また まん丸の形で川にゴロゴロあり、それを加熱鍛冶製鍊したり、鍛鍊するだけで容易に鉄加工素材に出来るとも聞きました。

今までに幾度か 展示されている「餅鐵」を見たことがあるのですが、見ただけではよく判らず。

沢山の「餅鐵」が産出場所と共に解説付で展示されていてやっと理解できました。



【釜石後背の北上山地と餅鐵が出る川】



【甲子川と後背の山々】

餅鐵とは

山中に鉄鉱石（磁鉄鉱）鉱脈としてねむっていた鉄鉱石が川に流れ、流れ下る過程で磨かれ丸くなつたもの。

従つて 鉄鉱石（磁鉄鉱）の鉱脈がある山から流れ下る川の流域で産出される。鉄分は 70%を超えて、非常に純度が高い。

釜石の後背地の北上山系には大規模な磁鉄鉱の鉱脈があり、ここから流れ下る甲子川や鶴住居川・小鎧川などの流域で産出される。

餅 鐵(米鉄)

餅鐵を釜石・橋野・栗林地方では「べいてつ」や「べんてつ」といっている。

東北地方一帯でもさまざまな呼称があり、「べんてつ」「ごくてつ」「まぐろ」「はふんてつ」「すえひろがね」「おもしりし」ともいわれる。

磁鉄鉱石が長い間、川の流れにもまれて丸みをおびたもので、専門的には「円錐磁鉄鉱」あるいは「磁鐵礫砾」と呼ばれる。

鉄分の品位は優れ、リンやイオウといった不純物が少ない。鉄分の含有率は約70%。

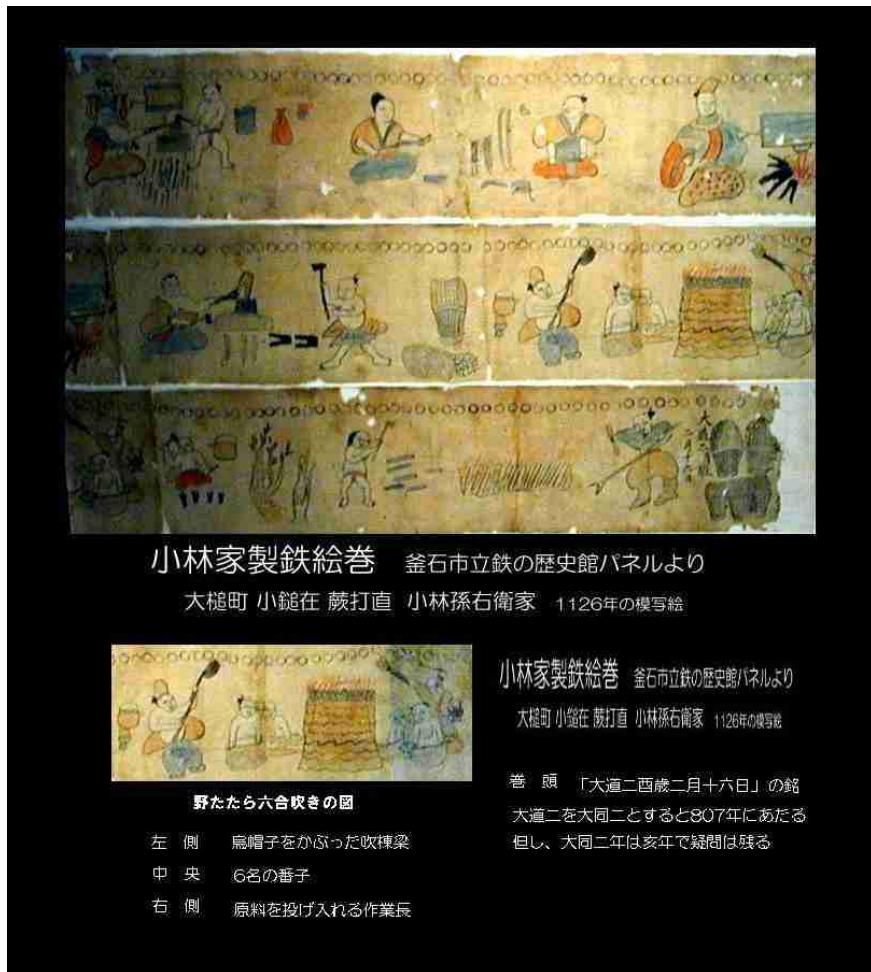
東北にはほかにも 餅鐵は北上川や秋田県米代川流域などで産出すると聞きましたが、資源が偏在するのもこれで理解。

70%を超える鉄分と高純度は砂鉄では得られぬものであり、砂鉄に替わる近代洋式高炉の原料としてこの釜石の鉄鉱石が浮かび上がり、かつ 釜石の地に洋式高炉が立てられたのも、釜石の後背の山中で大鉄鉱脈が発見された事と共に、古くからこの餅鐵が製鉄原料として使われてきた歴史があつたためと考える。

思っていたものよりも 大きいもの 細かいもの 色々あることも判りました。

また、鉄の歴史館のパネルの中にもう十年ほど前 久慈市の川鉄たら館の入場券に使われていた「六合吹き」の図を見つけました。

大槌町小鎌 小林家蔵の製鉄絵巻で巻頭に少し疑問はあります 807 年の銘がある製鉄絵巻の一部たら炉製錬の部分を切り取ったものであること初めて知りました。



製鉄絵巻巻頭にある
807 年の銘
小林家蔵 大槌町小鎌

807 年は疑問があるにしろ、古代 大和勢力が東北に勢力を及ぼす前 この地方には既にこの「六合吹き」図に見られる餅鐵を製鉄原料とするたら製鉄があったのではないか・・・

蝦夷の武器 蕁手刀には 餅鐵・鉄鉱石原料の鉄製品が多数混じっているという。

又、 釜石の隣町大槌町小鎌には この地名の由来となった「鬼伝説」があり。

「北上山系橋野の鬼が畿内からやって来た鍛冶屋の技術を毎夜毎夜盗みに来て退治される」鬼伝説を伝承。これもたら製鉄黎明の古代 西日本からの砂鉄製錬と餅鐵製錬の鍛冶師の争いではなかったか・・・

餅鐵を通じて 古代蝦夷と呼ばれた人たちの時代に既に釜石には餅鐵を原料とする独自の製鉄技術があり、その鐵が蝦夷と呼ばれる人たちの力の大きな源泉でなかつたか・・・



鉄の歴史館 監理員の留畠昌一氏に大変お世話になり、餅鐵について色々教えていただいた。

氏は植木撥など簡単な縦型実験炉での古代たたらの製鉄実験を指導されており、「餅鐵は素人では見つけにくいが、今も釜石後背地の川の流域に行けば採れる。」と先週行かれて採ってこられたバケツ一杯の餅鐵をひょいと見せていただいた。

また 簡易実験炉なども見せていただき「餅鐵が非常に原料として良い」事を教えてもらった。

植木鉢を炉底とした簡単な炉で鉄が作れるなど思いもよらなかった。ビックリするとともに 古代の十分温度の上がらぬ「野たたら」でも餅鐵を原料とすれば 鉄が作れる事の証明かも・・・と思いました。

でも、同じ餅鐵でも 産地が違うと製錬の容易さが非常に違う事を簡易実験炉で経験していると。

餅鐵を碎いた製鉄原料や実験炉・餅鐵さらには 餅鐵のある沢の写真など現物を見せていただきながらいろいろ熱心に教えていただき 餅鐵の疑問もほぼ解消。本当にありがとうございました。

砂鉄だけが原料でない事鉄原料・鉄素材としての餅鐵の優秀性など本当に思いもよらぬ事でした。

やっぱり イメージだけではダメですね・・・これもつくづく思いました。

帰り際に ひょいとちいさな餅鐵一つ 氏から戴いて帰りました。

やっぱりほしそうに見えたのでしょう。でも 感激です。

早速帰って磁石に引っ付けたり、感触を楽しんだり、古き蝦夷の時代をいめーじしたり・・・色々楽しんでいます



田舎なれども南部の国は 西も東も金の山

岩手県・南部 蝦夷の鉄 北上山系 大槌・釜石へ

4. 古代 蝦夷の鉄 鬼伝説の街 大槌町へ



【 大 槙 町 】

せっかく釜石まで来て やっぱり古代製鉄遺跡の街 大槌町には寄って帰りたい。

大槌・小槌と製鉄と関係する名前がついている町。大槌。

大槌・小槌が古い和鉄・たたらと関係のある地名であり事は知っていましたが、この地名が鬼伝説と密接にかつながっていることつい最近まで知りませんでした。

古代 北上山中にやって来た製鉄の民が この山中の餅鐵と出会い、蝦夷と呼ばれる人たちの鉄を育ててきた。その過程で起こる幾多の争い。 それが、鬼伝説としてこの大槌の街にも伝承されています。釜石の隣町ですが、一つ汽車を逃すと柏まで帰れない。釜石駅で時刻表を眺めるが妙案無し。

北ヘリアス式海岸の山の中を汽車で大槌駅まで行って 約 40 分大槌町にて下りの汽車で釜石まで戻りそのまま盛岡行の急行に飛び乗る。汽車の中から、たたら遺跡がいたるところに散在しているといわれる大槌町の後背の山・鶴住居川・小槌川を眺める事にする。



小槌川周辺



鶴住居川周辺



釜石 - 大槌 海岸を望む



【鬼伝説の周辺で 釜石 - 大槌 の 車窓より】

釜石駅を甲子川沿いに少し引き返し、遠野への鉄路とわかれ 直ぐ北へカーブ。すぐトンネルに入って山中へ。チラッと海が見えたと矢思うとまた山の中。約 15 分で大槌町へ
駅には観光案内版があるが、ここがかつて和鉄生産の宝庫であったことを示すもの何も無し。大槌町の由来となった鬼伝説もまったく痕跡無し。
駅の越線橋から後背の山々を眺め、古代の鉄のイメージ膨らまし、汽車で引き返し、小鎌川・鶴住居川に眼をこらす。
小さい川ではあるが川原が広く 川筋の奥にどっしりと北上の山々が控えている。
この奥が釜石の鉄を支えた鉄の山。蝦夷の宝かも・・・・。
鬼伝説の山にふさわしい奥行き・・・・。
次回はゆっくり 歩きたい。そして 山田へも



大槌町 小鎌 小林家蔵 古代の製鉄絵巻

大槌町に伝わる鬼伝説

「遠野上郷大槌町物語」 しおはまやすみ・船橋暉男著

柴田弘武著「鉄と俘囚の古代史」より引用



野たら六合吹き (小鎌 蕨打直 小林氏蔵 製鉄絵巻より)



小鍋川・大槌川 概略



大槌町

「遠野上郷 大槌町 物語」

「小鍋川の川下より川上に向いて左の山を葡萄森という。土地の人これをブンタ森と呼び、鶴の住居村との境をなす。

この山裾に大和高取より移り住みし鍛冶屋あり。いつの頃より、毎夜この家の仕事場を窺い見る鬼が現われ、やがて屋の柱をゆするなどの狼藉を働く。鍛冶屋ついに怒り、手に持ちし大槌・小槌にてその鬼を叩きしという。

鬼は頭を打ち割られ、大いなる声を発して飛び上がり、そのはずみにて屋根を突き抜け、山奥を目指して逃げ行きぬ。鬼は逃走の途次も小鍋川中流の藤打直にて川前の一軒の家に打ち当り、その家を壊し、山向こうの橋野の方へ去れり。鍛冶屋は手負いせる鬼の行方突きとめんと・・・・弓箭を携えてやまに入る。されど鬼の行方ついに分明ならず。

後に橋野人の伝えしは橋野の山奥、笛吹峠に近き山中、片羽山といえる山の麓にて、鬼の仰向きになりて死せるを見たりと。この地を誰いうとなくアオノキの地という。今日の青ノ木なり。

鍛冶屋はその後家業に精出さんと思い立ちしも、その手に大槌・小槌を持つたびに打ち殺せし鬼の思い出されて氣色悪し。ついに鍛冶を廃業せんと鬼を打ちし大槌・小槌を家の前を流るる川中に打ち捨てり。鉄にてつくりし小槌はその川底に沈み、木にてつくれる大槌はその川面に浮き、流れて海へ出でしが、後ふたたび潮により岸に戻され、一つ北の川筋の河口へ漂い着けりという。

これにより土地の人、誰言うとなく小槌の沈みし川を小槌川、大槌の漂い着ける川を大槌川と呼びならわすようになれりとぞ。」

田舎なれども南部の国は 西も東も金の山

岩手県・南部 蝦夷の鉄 北上山系 大槌・釜石へ

5. 北上は蝦夷の根拠地 もう一つの和鉄の故郷

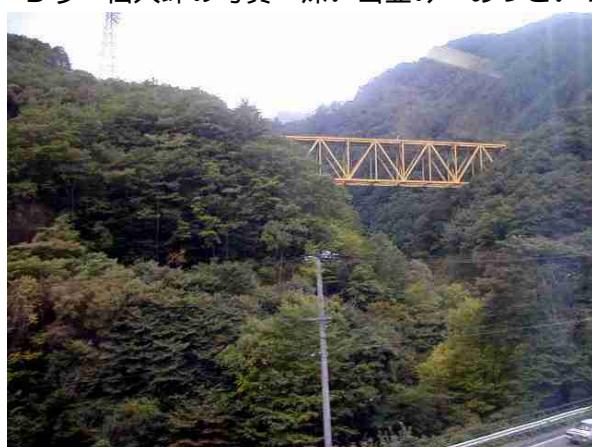


古代「西から製鉄技術が伝えられる前に東北には製鉄技術はなかった」との説が有力であるのも承知しているが、古代東北で育まれた「餅鐵を原料とした製鍊・鍛冶鍛錬技術」「蝦夷の鉄として捨て去られたように見える技術」これも又 和鉄の源流。

この蝦夷の鉄加工技術が蕨手刀を生み 出羽月山や舞草の刀鍛冶を生み そして日本刀の源流となって行く。

ここにも 鬼がいたが 鬼が築いた伝統の技が日本のルーツとして生きている
釜石に行ってそんな意を強く思った。

それにしても 北上の山は深い。緑の山の中をどんどん汽車が登ってゆく。釜石鉱山の事務所の写真採ろう 仙人峠の写真 深い山並み あっといってる間にトンネルや山肌で隠れてしまい写真とれず。



汽車と山とがあまりにも近い。本当に北上は深い山
鉄の山

『田舎なれども 南部の山はよ 西も東も 金の山』
やっと峠を越えて 視界が開け 早池峰の山々が見え
出し、遠野の盆地へ入っていった

2002.9.23. 蝦夷の鉄 餅鐵を釜石に訪ねて

田舎なれども南部の国は 西も東も金の山

岩手県・南部 蝦夷の鉄 北上山系 大槌・釜石へ

【完】